

分掌チャレンジ

平成30年度		分掌名	教務部・生徒指導部・進路保健部・首席	氏名	山中 健 庄司 樹生 中村 久子 北村 陽子 藤村 幸博
学校経営計画		具体的な目標や方法〔数値目標があれば〕 (どのようなレベルまで、どのような方法で、いつまで、など)		中間チェック(10月15日記入)	
				年度末チェック(月 日記入)	
勉強がわかる喜びを伝える	「分かること」の楽しさを体験できる授業づくり	生徒の学力に応じた教材を作成し、わかりやすい授業を行う。	目標：全教員が授業力向上に努めることにより、生徒の授業の参加率や単位修得率を上げる。 方法：授業力向上のための校内研修等を実施し、教科の枠を超えて授業方法やわかりやすい教材開発方法等について考えることで、生徒がわかる授業の展開につなげる。	前期単位修得者の割合が、昨年度55.8%に対し69.7%に増加した。授業改善のための校内研修は、現在企画。	
		生徒が「分かった」と実感できる授業づくりの取り組み、学力の定着及び出席者の増加を図る。	目標：ICT機器を活用した授業を効果的に実施することができる教員数を増やす。 方法：教科指導等においてICT機器を効果的に活用できるよう、情報処理委員会と連携し、ガイダンスの実施や、ICT機器の取り扱いマニュアルの充実を図る。	昨年度11月末に、全HR教室に設置型のプロジェクトが整備され、今年度だけで、559回のICT機器を利用した授業を実施した。	
		授業見学、研究授業等により、各教員が指導法の工夫・改善に取り組む。	目標：教員間の授業見学機会・研究機会を増やす。 方法：授業見学週間に設置することで、教科の枠を超えて授業見学を行い、相互の授業力向上につなげる。(年間2回実施) また、教員間の学習会を実施し、教科の専門性を深めることにより授業力向上につなげる。	6月に第1回授業見学週間を実施、のべ17名の教員見学、2名のビデオ撮影があった。教科の枠を超えて教員間で相互の授業を見学することで、個々の授業力向上のための良いきっかけとなった。11月に第2回授業見学週間を実施予定。数学科では授業力向上のための教員内学習会を8回実施した。	
		授業において、図書室の利用を促進する。	目標：生徒の図書館来室者数を増やすことで、生徒が主体的に物事を考える力を身につけることをめざす。 方法：授業における図書館利用の可能性を探り、生徒が図書館に足を運びきっかけをつくる。	図書室利用を必要とするレポート課題を設定するなど、各教科で工夫をしている。また、図書室において、いくつかの授業を実施する計画をしている。	
全教員で授業規律について指導する意識を共有し、生徒が落ち着いて学習できる環境づくりに努める。昨年度に引き続き、授業中の携帯電話の指導を学校で統一して行う。	年度当初に、携帯指導に対する意識を教員間で再認識する機会を設け、非常勤の先生方にも生徒指導部より細かく説明を行った。また、授業中は机の上に必要のない物を置かないようにする指導を徹底し、より一層の携帯指導の定着と、生徒が授業を集中して積極的に参加できる環境づくりに努める。	携帯指導に関しては定着しつつあるように感じるが、最近では授業中に必要のない物(飲食物)を机の上に置いたまま授業を受けている生徒が見られるので、教員全体で授業環境の整備に努める。			
基本的な倫理観や規範意識を育てる。	教科の学習およびHR・総合的な学習の時間等も含めた教育活動全体を通して指導する。	授業や考査を妨害するなど、人に迷惑をかける行為は、全教職員で同じ基準と意識を持って厳しく指導をし、喫煙に関する問題に対しても、未成年の喫煙指導だけでなく、成人の喫煙指導も含めて指導していく。	夏季休業明けから、授業の遅刻や中抜け等、授業を最後まで集中して受けられない生徒が増えてきている。授業中に入浴する生徒が多く、真面目に受けている生徒に悪い影響が出ないようにするためにも、学年と協力して、早い段階からの個別指導を行っていく。また、成人の喫煙者には携帯灰皿を持たせるなど、喫煙者のマナーを理解させる。		
人と関わる体験を通して、コミュニケーション能力の育成を図る。	挨拶ができる生徒を育てる。	登下校時に門での声掛けを積極的に行い、ブラックボードや掲示板を活用して、生徒の自主的な挨拶を促進する。学校教育自己診断の生徒向けアンケートにおいて、「先生に挨拶をしている」の肯定的回答率が3%向上させる(H29年度：68%)	登下校時の門での声掛け、ブラックボード等を利用した挨拶推進の他に、生徒が作成した挨拶のポスターを校内掲示している。それにより、年度当初に比べ自主的に挨拶する生徒が多くなったように感じる。今後も、生徒にイラストを描いてもらう等、よりあいさつに溢れた学校づくりができるように教職員一同と努める。		
	生徒会行事等を通して、遠足、修学旅行等に安心して参加できる環境を作り、中間とともに行事に参加できる生徒を育てる。	・各行事でボランティアスタッフを募り、生徒が主体となる行事をめざす。 ・学校教育自己診断の「体育祭、文化祭などの学校行事はみんなが楽しく行えている」の肯定率が3%向上させる(H29年度：77%) ・行事の生徒参加率を体育祭、文化祭共に50%以上を保つ。(H29年度体育祭：51%、文化祭：51%)	行事の準備や片付けが年々学年単位で行われるようになってきており、とても円滑に学校行事が進められるようになってきている。また、今年度の体育祭生徒参加率は55%であり、昨年度よりも4%増加した。文化祭においても50%以上の参加率を確保し、日頃の生徒とのコミュニケーションや、HR活動の大切さを伝えていく。		
	各種行事において、保護者や地域住民および地元中学校教員と積極的に連携・交流を図る。	・町内会・近隣中学校に対して各行事に関する広報活動を活性化させ、より魅力的に地域の方々が関心を持って参加した学校をめざす。 ・体育祭・文化祭に来校する保護者、地域住民、中学校教員の人数を前年度より増やす。(H29年度：437名)	町内会や近隣中学校等に向け、体育祭の広報活動をしたり、昨年度、中学校の先生方が見学に来た。保護者の行事への関心は高まり、今年度は体育祭に約130名の方が参加され、満足し帰られた。10月の明月祭に向けて広報活動を生徒会中心に行っているため、生徒をはじめ、来校された皆さんが満足して帰っていただけるように準備を整える。		
	ボランティア活動や部活動等を通じ、学校に対する誇りと自己肯定感を育てる。	・清掃ボランティアへの積極的な参加を生徒に促し、生徒にボランティア意識を高めさせボランティア活動をより活性化させる。 ・部活動加入率が3%増加させ、部活動の活性化をめざす。(H29年度：32%)	各部活動でも清掃ボランティアへの参加意識が高まり、より主体的な活動になってきている。後期以降は、生徒が初めて参加したくなるような活動になるよう、HR等で生徒に周知したい。またどの部活動も活発に日々行われている。昨年度全国大会出場はバドミントン部は今年度も出場し、サッカー部も全国大会出場を果たすという快挙を成し遂げた。		
生徒指導に際して、各教員が生徒との人間関係を最大限大切にしながら、家庭・中学校・地域との連携を密にして取り組む。	・学校教育自己診断の生徒向けアンケートにおいて、「先生の指導について理解できる」の肯定的回答を2%向上させる(H29年度：81%)。そのためにも普段からの生徒との関係を構築することに努め、指導の時に限らず必要に応じて家庭との連絡を密に取り、学校と家庭との意思疎通を図る。 ・保護者向けの学校教育自己診断のアンケートにおいて、「学校は、家庭への連絡や 意思疎通を行っている」の肯定的回答が85%を下回らないようにする。(H29年度：86%) ・年5回「生徒指導だより」を発行し、指導に関する周知や注意喚起、落とし物の情報などを生徒に示すことができる機会を設ける。	・担任や学年が生徒指導部と密に連携を取り、生徒や保護者とも十分にコミュニケーションとっていることもあり、現在はスムーズに指導を行うことができている。今後も指導の時だけでなく、普段の学校生活から十分に生徒とコミュニケーションを取り、教員間で十分に情報交換を行うことで、問題行動の未然防止・早期解決を行っていく。 ・今年度より始めた「生徒指導だより」を発行したことで、「生徒指導だより」を見て落とし物を取りに来る生徒が増えた。今後は、落とし物や忘れ物をしないようにする事を「生徒指導だより」を通して伝えていきたい。			
フォローアップコーディネーターを中心に困難を抱える生徒への支援体制を整える。	(A) 本校のあるべき姿の明示 ⇒ 昨年度に決定した具体的な取り組みについて実施状況を確認し、中退防止の改善点を検討する。 ①1学年「国語・数学・英語」の少人数熟度別授業 ②遅刻防止の為に5分を超えない入室の遅刻扱い (B) 支援を必要とする生徒への取り組み ⇒ 生徒支援の具体的な方策の明示 ①要支援生徒に対して個別的教育支援計画・指導計画を作成する。 ②ケース会議を行った生徒のアセスメントと支援目標を整理し、指導記録を作成する。 ③スクールソーシャルワーカーを活用し、子育て支援課等と連携して要保護児童に対しての継続した見守りを行う。 ④障がいのある生徒の就職を保障するため、障がい者就労支援センターや精神科医院、ハローワーク等との連携を行う。 ⑤夜間介助員や学習支援員の配属・調整を行い、有効に活用できる体制を整える。 ⑥コグトレ等の認知能力改善プログラムを研究し、生徒の学習意欲や能力を向上させる取り組みを開始する。 (C) 中途退学や長期欠席を予防する為の家庭との連携 ⇒ 学校の教育活動や行事等の取り組み状況をすべての保護者に周知する為、年1回程度の頻度で学校通信を各家庭に郵送する。 (D) 職員研修 ⇒ 生徒理解と保護者への対応をテーマに、年間5回の教職員研修を実施する。 (E) 上記の取り組みにより、平成31年度末の中途退学率を11.1パーセントとする。	(A) 本校のあるべき姿の明示 ⇒ 昨年度に決定した具体的な取り組みについて実施状況を確認し、中退防止の改善点を検討する。 ①1学年「国語・数学・英語」の少人数熟度別授業 ②遅刻防止の為に5分を超えない入室の遅刻扱い (B) 支援を必要とする生徒への取り組み ⇒ 生徒支援の具体的な方策の明示 ①要支援生徒に対して個別的教育支援計画・指導計画を作成する。 →今年度分の作成が完了した。 ②ケース会議を行った生徒のアセスメントと支援目標を整理し、指導記録を作成する。一Sケース会議にて目標を整理し、ケース会議を実施した。今後はAケース会議にて振り返りを行う予定である。 ③スクールソーシャルワーカーを活用し、子育て支援課等と連携して要保護児童に対しての継続した見守りを行う。一門真市と守口市の担当課を訪問し、連携を行った。 ④障がいのある生徒の就職を保障するため、障がい者就労支援センターや精神科医院、ハローワーク等との連携を行う。一1名の生徒に対して教育手帳の申請から就労の支援を実施した。 ⑤夜間介助員や学習支援員の配属・調整を行い、有効に活用できる体制を整える。 ⑥コグトレ等の認知能力改善プログラムを研究し、生徒の学習意欲や能力を向上させる取り組みを開始する。一当該のプログラムに関する全国大会に8名が参加した。 (C) 中途退学や長期欠席を予防する為の家庭との連携 ⇒ 学校の教育活動や行事等の取り組み状況をすべての保護者に周知する為、年1回程度の頻度で学校通信を各家庭に郵送する。 → 予算の関係から実施を見送った。 (D) 職員研修 ⇒ 生徒理解と保護者への対応をテーマに、年間5回の教職員研修を実施する。 → 5回の職員研修を実施・完了した。 (E) 上記の取り組みにより、平成30年度末の中途退学率を11.1パーセントとする。			
夢や志を抱く喜びを伝える	進路に関する十分な情報を生徒に提供するとともに、保護者にもその情報が届くようにする。	・予約奨学金の生徒・保護者向け説明会を5月25日に実施する ・6月16日に卒業学年の保護者向け進路説明会を実施する。進路担当者の紹介、具体的なスケジュール、就職・進学の説明、個別相談などを行う。またスカラシップアドバイザーを派遣してもらい、進学に係るお金の話をしてもらおう。 ・奨学金(予約、在学中)の募集案内をホームページに掲載する。 ・進路の手引きを更新し1年生に配布。進路ガイダンスで活用する。 ・在校生向けにアルバイト情報を20件以上紹介する。アルバイトを希望する生徒の保護者や、卒業学年生徒の保護者とは、連絡・確認をとる。	6月16日の卒業学年の保護者向け進路説明会には、約16名の参加があった。スカラシップアドバイザーの進学に係るお金の話には、8名の参加があった。奨学金を利用している生徒は現在21名である。9月の放送会では、卒業学年生徒の進路実現に向けて努力している実態について話し、今後の進路HR、秋の進路ガイダンスへの出席を促した。		
	進路ガイダンス機能の充実を図るとともに、個々の生徒のニーズに合った進路指導をする。	・各学年の進路指導目標に対応した進路ガイダンスを5月と10月に実施する ・進路ガイダンス、進路ホームルームを通じて、体系的な進路指導となるよう計画的に立案・実施する ・外部講師などを多く活用し、様々な話を聞く機会を設定する ・卒業学年生徒に対しては、全体指導に限らず、個々の希望に応じた個別指導の機会を多く設ける	1年生に対しては、早い時期にアルバイトについての指導を行った(先生方のアルバイト体験/アルバイトをすすめる上での注意など)。3年生を対象に9月進路HRでは「先輩の話を聞こう」を実施した。卒業生2名を講師として招き、体験談などを聞いた。卒業学年生徒に対しては、就職セミナー、就職ゼミ、進学ゼミを開催し、個々の希望に沿った指導を行っている引き続き個々のニーズに合った指導を続けていく。		
	就業体験をする生徒を増やす。	・1年次で、アルバイトについて聞いたり考える機会を設ける(先生インタビュー、進路ホームルーム) ・就業希望者には面談ときめ細かい事前指導(面接練習、履歴書指導)を行い、採用につながるようサポートする ・30社以上の事業所に訪問(連絡)し、在学中のアルバイト採用や正社員採用を目標とした求人開拓を全教員で行う ・1月時点の就業率は5月よりあげる	在学中生徒に案内するアルバイト先は今年度新たに8件掲示している。求職の相談対応をした新規生徒は9名で、そのうち4名がアルバイトに就いている。全教職員で43社の企業訪問(連絡)を行い、新卒採用の求人数は、昨年度よりもさらに多い約200件をもちょうことができた。在学生の5月時点就業率は、58パーセントである。進路決定につながるよう、就労希望生徒のサポートと、企業開拓を行い、在学中の就業率上昇をめざす。		
組織の活性化と人材育成	校内組織の活性化と職務の効率化の取組み	【校務検討委員会を中心に学校改革を推進する】 ・学校経営計画の4本柱を円滑に実施するための課題を明確にし、その対応策について検討する ・校務検討委員会で検討された内容については、議事録や職員会議等で共有し組織運営の活性化を図る 【時間外勤務を軽減させる】 ・ICTの活用することで会議等を見直す ・限られた時間の中で成果を出すために、現在の組織的な業務内容の課題等を明らかにする ・個人及び組織力(チーム力)を最大限に引き出すために、仕事の改善にむけての情報発信や対策を検討する	【校務検討委員会を中心に学校改革を推進する】現在進行中の案件 ・「国語・数学・英語」の習熟度別少人数授業 ・定時制における修学旅行の在り方 ・単位制高校における進級規定について考える 【学校改革】と【時間外勤務を軽減させる】 ・ディスカッションよりもダイアログへ否定、批判しないWin-Winを目指した対話を推進する 一 日頃の職員間のコミュニケーション力を向上させることもできる。 ・働き方改革に関する情報提供は継続していく・会議開始時間を30分繰り下げると、会議前に一仕事できるようになった。		
	首席を中心に、経験年数の少ない教員の育成に取り組む	・新着任者に対する座談会の実施 ・昨年度に引き続き、日々の教育活動に役立つ情報や知識の伝達を業務に支援を来たさない範囲で行う ・他校の大飯府立高等学校で実践されている「わかる授業」(すべての生徒に対して)の見学研修を希望者を募り実施したい	・「公文書の書き方」について実施 ・教育活動に役立つ情報や知識の伝達は継続していく。 ・11月30日外部講師による「学校における大規模災害時の対応」について研修予定。		